

奈良・県立明日香養護学校遺跡

1 所在地 奈良県高市郡明日香村川原・小山村

2 調査期間 一九七二年(昭47)一二月

3 発掘機関 奈良県立橿原考古学研究所

4 調査担当者 白石太一郎・前園実知雄

5 遺跡の種類 不明

6 遺跡の年代 七世紀後半

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

県立明日香養護学校において、校庭の一角に給食室用ボイラーのオイルタンクを埋設するため掘削工事を実施していたところ、一九七二年一月六日に、土器類や若干の木片とともに木簡(1)が出土した。学校側からの連絡を受けて、当時、橿原考古学研究所に在籍しておられた白石太一郎氏と、現所員の前園実知雄氏が現地赶赴して、土層観察を行った。その結果、もとの



(吉野山)

水田床土と判断された黄褐色粘土質土層の下は三層に分かれ、その最下層である第五層はやや砂っぽく少量の有機物質を含み、木簡、土師器・須恵器、加工痕のある木片、種子・樹皮などの遺物は、全てこの第五層から出土したものと判断された。土器は藤原宮跡出土のものに類似する。養護学校の校舎が建っている平坦な尾根上に、何らかの遺構を伴う遺跡があり、その東の谷底の低湿地状の所に、木簡などの遺物が堆積したものと考えられる。土層観察後、残余のあげ土から、木簡(2)が採取されている。

木簡(1)(2)については、岸俊男氏がとられた木簡調書が残っており、それをも参考にしながら、今回新たに木簡そのものについて再検討し、积文を定めた。木簡(2)はこれまで未報告だったものである。

8 木簡の积文・内容

(1) ・「＜旦波国多貴評草上」

・「＜里漢人マ佐知目」

178×28×4 0022

(2) ・「＜白糸×

・「＜大遣×

(41)×15×2 0029

(1)は完全な形で残った貢進物付札で、表と裏面に続けて国・評・里名と貢進者を記すが、貢進年月日や税目・品名はみえない。藤原宮跡出土木簡には、こうした記載形式をとる事例がいくつかみえて

